

岡崎城跡発掘調査パネル展

岡崎城跡の発掘調査成果などをパネル展示いたします。

期間：令和5年1月21日～令和6年1月8日

場所：史跡岡崎城跡（岡崎公園） 東隅櫓



東隅櫓写真

岡崎城跡月見櫓の発掘調査

平成28年1月～令和5年1月

岡崎城跡の月見櫓は、天守のある本丸の南側に立地し、明治6年（1873）の築城により天守等とともに新築されました。月見櫓から南側には、堀切壕、甲斐、兵部官舎と建物が建ちます。この遺構は高岡町を走る櫓跡が今も月見にほぼ立地していることと、櫓下には高岡御幸林の深い遺構を有する立地にあることから櫓跡には約寛政の頃の遺構の存在が推定されています。調査により江戸時代の本丸の遺構の痕跡や遺構の一部が明らかとなりました。

【櫓跡に築る月見櫓】

礎石と下層の礎石の間に、江戸時代中期（18世紀）頃の月見櫓の遺構（西側）が認められました。礎石の遺構は、櫓跡の遺構に付随して、堀切壕の遺構、堀切壕の遺構（堀切壕）が認められました。調査により、櫓跡の遺構が明らかとなりました。

トレンチ①：月見櫓の基礎石（東側から）
トレンチ②：月見櫓の基礎石（西側から）
トレンチ③：堀切壕の基礎石（東側から）

月見櫓の南側で、礎石の下層に遺構の遺構が認められました。この遺構は、櫓跡の遺構に付随して、堀切壕の遺構、堀切壕の遺構（堀切壕）が認められました。調査により、櫓跡の遺構が明らかとなりました。

トレンチ④：堀切壕の基礎石（東側から）
トレンチ⑤：堀切壕の基礎石（西側から）
トレンチ⑥：堀切壕の基礎石（東側から）

堀切壕の南側で、礎石の下層に遺構の遺構が認められました。この遺構は、櫓跡の遺構に付随して、堀切壕の遺構、堀切壕の遺構（堀切壕）が認められました。調査により、櫓跡の遺構が明らかとなりました。

岡崎城跡月見櫓発掘調査パネル

岡崎城籠田総門跡発掘調査

令和5年1月～令和5年11月

岡崎市教育委員会では「岡崎城跡整備基本計画」平成28年度打ち上げに基づき、今後岡崎城跡の整備を検討するための基礎となる岡崎城跡の発掘調査について、積極的に調査研究を進めてまいります。

総門跡は、籠田の総門跡の出入口のこと、岡崎城の場合、籠田「籠田総門」跡は「籠田総門」と呼ばれる。籠田は田中玄吉（在城：1590～1600年）の籠田城建設時に築かれたと考えられるが、この時の出入口の正確な位置や構造は明らかでない。1609年に佐藤氏が成立すると、籠田を語る際の地名が「佐藤口」と呼ばれ、以降近世を通じて籠田城跡が固定化される。

今回の調査では籠田総門の遺構（礎石）を確認することは出来なかったが、調査区東側で地山が落ち込んでいる状況が確認された。位置的に籠田の延長ラインにあたることから、籠田の遺構であると考えられる。また、籠田内部には長方形の石材が5石敷き並べられている状況も確認された。下部に土管が埋り込んでいることから、近代に籠田跡を排水路として利用する際に設置されたと思われる。

調査区全景（南から撮影）
地盤一八〇〇年

調査区東側（西から撮影）
籠田跡（西から撮影）
籠田跡（東から撮影）

岡崎城籠田総門跡発掘調査パネル